

平成30年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

広中央中学校区 校番4 学校名 広中央中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** 確かな学力の育成	① 学力の向上を図る。	(1) 広中央中学校区の授業スタイルを取り入れた授業改善を積極的に実施する。	・教職員対象のアンケートによると、「広中央中学校区の授業スタイルを取り入れて授業を行った」という問いに対する肯定的な答えは96%となった。(前年同時期「めあて」やまともに係わる問いに対する肯定的な答えは71%) 「めあて」の提示や振り返りの実施などは全教職員の共通理解のもと、組織的に実施できていると考える。	・興味関心が高まる「めあて」、生活と関連させた振りかえりとなるよう、内容の質を高め、生徒が自ら考え表現する学習活動の実施ができるよう、更なる授業改善に取り組む。
		(2) 学習規律の徹底や家庭学習の習慣化を図る。	・アンケート結果から学校における授業には概ね落ち着いて臨むことができているといえる。しかし、人の話を聞く態度は十分とはいえず、理解していない場面も見られる。 また、家庭学習時間に関してはまだまだ足りないといえる。学習する意義が理解できていない、SNSへの執着、基本的な生活習慣の確立ができていない、課題の出し方が適切ではないなど、様々な原因が考えられる。	・授業における身なりや姿勢の指導の徹底を行い、正しい姿勢・形を習慣化させることで、より望ましい授業態度の実現を目指す。 ・家庭学習に関しては、将来に向けた学習の意義を日頃から語り、理解させる。また、生活ノート(日記帳)に家庭での学習開始時間を毎日記入させ、自分自身で振り返らせることで、家庭学習習慣を身につけさせる。課題の出し方も授業とのつながりを持たせるなど取り組みやすいものに改善する。
** 豊かな心・たくましい体の育成	② 自尊感情の高揚を図る。	(3) 生徒指導規程に則った指導を組織的に行う。	・時間を守って行動することができることを目標にし、「8時20分教室入室」、「ベルスタート」などを重点項目に置き、90%以上の生徒ができることを目標にした。アンケート結果から、97%の生徒が概ねできていると答えており目標は達成できている。しかしながら、時間は守られていても授業準備などができてない生徒が多くいると感ぜられる。また、遅刻する生徒は固定化している。	・時間を守れない生徒は決まっており、説諭、家庭連絡をしていく。また、定期的に登校指導を全職員で行い、遅れがちな生徒の指導を行っていく。 ・全体的には落ち着いてきたが、教師側の指導が少しづつ曖昧になってきている。生徒指導規程をもとに全職員がぶれのない指導をしていけるよう引き締めていきたい。
		(4) 生徒の言動を肯定的に評価する。	・自分には良いところがある、と答えた生徒の割合は65%であり、目標値の75%を大きく下回った。授業での積極的発言や大きな声での挨拶などが全体的にできなくなってきている。大きな声を出すことが恥ずかしい、何か発言すると周りから何か言われるかもしれないという感情から消極的な生徒が多くなっていると感ぜられる。	・授業では、グループ学習などを積極的に取り入れ、発言しやすい環境作りに努める。また、発言内容をしっかり評価する指導を行っていく。部活動などすべての学校での活動において声を出させる指導を行っていく。
*	③ 体力の向上を図る。	(5) 呉市・校区・本校での重点目標の達成を図る。 (50m走・ハンドボール投げ・上体おこし)	・新体力テストの結果では、全校生徒のうち、C判定以上が380人、D判定以下が89人となり、81%の生徒がC判定以上であった。 呉市の強化種目である50m走は、2年生男子は校内平均7.89Pで全国平均の7.82Pをやや下回り、2年生女子では校内平均8.77Pで全国平均の8.66Pをやや下回っている。 ハンドボール投げ、上体おこしもやや下回っている。	・体力テストの結果を3者懇談会で配布し、保護者にも生徒にも公表し、体力向上を求めた。 また、夏休みの課題として縄跳びなどを中心に体力づくりに取り組ませることができた。体力を向上させるためには、毎日の運動が必要であり、部活動を活性化することが重要と考える。 どの部活動も熱心に取り組んでおり、今後とも継続することが重要と考える。
		(6) 全教職員で服務規律を守り、業務改善に努める学校風土を構築する。	・1学期に行った教職員アンケートの結果によると、不祥事防止に係る校内研修を当事者意識をもって受けたという教員は96%(うち強い肯定は74%)であった。不祥事防止に係る校内研修を月1回計画的に行うことができている。今年度は主任のみならず、各分掌や学年で研修の実施主体を担当する形をとっているため、より主体的に研修を進めることができている。	・現在行っている研修のちか方を今後も継続していく。当事者意識を持って服務研修を受けた教職員の割合について目標値は100%を設定しているが、今回のアンケートでは1名が「ややあてはまらない」と回答しているため、目標値の100%が達成できるよう、研修の内容の充実をさらに図っていきたい。
*	④ 信頼される学校	(7) 保護者や地域への情報発信の充実を図る。	・保護者アンケートによると、「広中央中学校の教育に満足している」という問いに対する肯定的評価は92%で、目標値を2%超えた。「あてはまる」という回答は37%(昨年度同時期では34.9%)、「ややあてはまる」という回答は55%(昨年度は55.6%)であった。体育大会などの行事や学級・学年・学校通信やホームページを通して、保護者や地域の方々に生徒が落ち着いた生活を送っていることを見ていただけているものと考えられる。	・生徒の頑張る姿を地域や保護者の方々に引き続き見ていただけるよう、学級・学年・学校通信やホームページを活用していく。また、行事への取組などにおいて、結果のみならず過程を重視した情報発信を行うことで生徒の自尊感情を高める一助としたい。